

# 教育だより

平成21年度三芳町教育委員会研究委嘱校研究報告

## 豊かな知性と感性を 育む三芳教育

教育委員会では、毎年、学校・グループ・個人に係る研究を委嘱し、学校教育の充実を努めています。各学校では、さまざま角度からよりよい授業を目指し、指導の工夫・改善に取り組んでいます。今月号では、研究委嘱校5校より各学校での研究状況等について報告します。問い合わせ 学校教育課(内線521・522)

### グループ・個人研究報告

- ◆(グループ研究)
  - ◆三芳中学校【数学科】基礎・基本の徹底を図る授業の工夫改善、【学校事務】事務職員定数加配による事務室の機能強化と、教員との協働による事務職員の役割について
  - ◆個人研究)
    - ◆藤久保小学校【図画工作科】つくり出す喜びを味わうとともに造形的な創造活動の基礎的な能力の育成をめざす題材の工夫改善
    - ◆三芳東中学校【コンピュータ】コンピュータによる成績処理・事務処理の効率化、【社会科】思考力・判断力・表現力を育成する社会科の授業、【総合的な学習の時間】総合的な学習の時間における情報モラル授業のあり方
    - ◆藤久保中学校【国語科】自分の考えをまとめて書く力を育てる指導法の研究

学ぶ喜びを味わえる指導法「自分の考えを表し、伝え合う力」の向上を目指して」

### 上富小学校

本校では昨年度の算数科の研究の成果を踏まえ、効果的な指導法の研究に取り組んできました。

授業では、児童が興味を持って学習できるように既習事項と関連付け、児童の気付きから学習内容の理解を深め、確実に問題を解くことができるように指導してきました。

また、算数的活動を通して表現力を育成することが重要であると考え、問題を解く方法や考え方の根拠などについて説明できる力を育成してきました。

さらに、以下のことを実践した。

- 全学級による授業研究会の実施。
- 全教職員が各学級で反復学習の指導に当たるチャレンジタイムの実施。
- 二年生以上の全学級で個に応じた少数指導の



▲算数科の研究発表会

### 実施

- 各学級に算数コーナーを設置し学習内容の振り返りに活用。
- 量感体験・タングラムの遊び・ストラックアウト・正多面体の展開図など、校舎内・校庭を活用した算数コーナーの設置。
- 本研究の成果として、本校では算数への関心が高い児童が増え、算数を苦手とする児童もあまりめずるようになりました。今後も、一層指導法の工夫改善を図っていきます。

まなび合いの教育を推進する教育課程「伝え合う力の育成を目指して」

### 三芳小学校

本校は「まなび合いの教育を推進する教育課程の研究」に取り組んでいます。副題を「伝え合う力の育成を目指して」とし、子どもたちが学校生活において、伝え合う活動の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語をとおし円滑な人間関係を築く力を育てたいと考え、研究に邁進しています。



▲みんなで考えを出し合って、グループの意見をまとめている様子

国語科において「伝え合う力」を重視した教育課程を編成し、指導の中で「話すこと・聞くこと」の実践的な表現活動を積極的に取り入れていきます。自分の考えを深めたり表現したり、相手の考えを理解したりしながら「伝え合う」喜びを味わえる児童を育てたいと願っています。そこで、意欲的に互い



が関わりあえる場を組み入れ、基礎・基本を身につけ、他者との関わりの中から、自らを高めたいという「まなび合いの教育」を推進しています。

ふるさとを愛しふるさとで学ぶ、健康でたくましい竹間沢小学校児童の育成

### 竹間沢小学校



▲4年生総合的な学習の時間(竹間沢地区めぐり)

「習得」と「活用」に視点をおいた教育課程の編成とその実施・評価のあり方

本校では昨年度までの文部科学省委嘱「伝え合う力を養う調査研究」の成果を生かした教育活動を展開しています。この特色ある教育活動を平成23年度の学習指導要領全面実施に対応させて、児童一人ひとりに確かな学力を培うことを目的に研究を行ってきました。平成21年度は「学校評価(自己評価や保護者

での「好ましい人間関係の構築」と「基礎学力の育成」を中心に「伝え合う力」を養う研究を通じて、児童一人ひとりの学力の伸びを大切にする指導観が確立してきました。この指導観は学習指導要領が改訂されても変わるものではありません。さらに平成21年度の基礎研究を根底に据え、来年度この指導観を授業の中でどのように反映させていくかを課題に実践的な研究を推進していく計画です。

確かな読みの力を育てる国語科の指導

### 藤久保小学校

本校では、平成20・21年度三芳町教育委員会、平成21年度入間地区国語教育研究会の委嘱を受け「確かな読みの力を育てる国語科の指導」の研究に取り組んできました。

「確かな読みの力」を育てるためには、「国語科の授業が充実すること」が最も必要であるとの共通理解に立ち、教師が児童一人ひとりの実態に寄り添い、学習内容を明確にした授業を実施してきました。その上で、「すらすら音読できる力」「主語、述語を押さえる、人物の言動を指摘できる力」「めまると沿ってまとめる力」等、言語活動を充実させ、児童一人ひとりの国語の力



▲全員のノートに、その場ですくつけ指導の様子

を育てることをねらい、全学級で研究授業を行い研究を進めました。その結果、教師の授業力が向上するとともに児童の読む力、書く力、話すこと・聞くこと力の向上がみられました。今後とも本研究を進めていき、学校教育目標「やさしく、かしこくつよい子」の具現化に努めていきます。

地域に根ざした総合的な学習の時間の実践

### 三芳中学校

三芳中学校では、三芳町教育委員会の学校研究委嘱を受け、「地域に根ざした総合的な学習の時間の実践」という主題を設定し、この1年間の総合的な学習の時間に取り組んできました。前年度の主題である「郷土三芳町を愛する生徒を育成」を踏まえ、総合的な学習の時間において、地域を知り、地域の方々との交流を実践するために、本主題を設定し取り組んできました。研究の内容として、

合いを大切にする姿勢をもてるようにしていくためには、どのような取組をしていくことが大事であるかが重要な柱でした。生徒たちは、3年間で9日間の体験活動を通じ、指導者・ボランティア・施設や事業所等の多くの人と接する中で、自分がかに多くの人に愛されているかを体感し、三芳町をより深く知り、本校の目指す生徒像である「格好いい中学生」と成長してきました。



▲「総合的な学習の時間」全体発表会

**図書館だより**

中央図書館 ☎258-6464  
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00  
竹間沢分館 ☎274-1722  
火～日 11:00～18:00



**3月の予定**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

【中央図書館】  
**くりぐらタイム** (絵本・紙芝居・手遊び等)  
 第1・3金曜日 (保護者同伴)  
 11:00～11:15 6ヶ月～1歳  
 11:20～11:40 2・3歳～  
 第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳  
**としよかん・くらぶ一会員制一**  
 3月は、合同の終了式です。  
 10:20～12:00 1～6年生  
**＜新年度としよかん・くらぶ会員募集！＞**  
 第4土曜日(7月、9月、12月を除く)に開催。  
 \*10:10～11:00 1・2年生 35人  
 \*11:10～12:00 3～6年生 40人  
 内容/本の読み聞かせとブックトークで本に親しみます。  
 申込み/4月8日(日)、14時から中央図書館にて受け付け。電話不可。本人か家族のみ申し込みます。  
 【竹間沢分館】  
**竹間沢くりぐらタイム**  
 (絵本・紙芝居・手遊び等)  
 11:00～11:30 1～4歳  
**◆スイミーおはなし会**  
 (絵本・紙芝居・ブックトーク)  
 第4木曜日16:00～16:30 4歳～小学生



ソメイヨシノの始まりは？江戸駒込の植木屋に奉公した少年が、小さな花の命を向き合い、江戸の町にあややかな新種の桜を植樹し開花させた。そのひたむきな姿を描く歴史小説。



都道府県別桜の名所、日本の桜図鑑など豊富な写真と案内文で、日本列島の桜の美しさをなぞる。水上勉、田辺聖子、新藤兼人、眉村卓らにのエッセイ「桜を想」とともに楽しめる。

【児童書】「花咲か江戸の植木職人」  
岩崎京子 著  
石風社 2009年4月  
請求記号 913.3



ソメイヨシノは江戸末期にできた品種。葉が出る前に花が咲き揃うのが特徴だ。「一本桜から群桜へ」。ソメイヨシノは、日本の花見文化を大きく変えた。桜から紐解く「日本」のお話。



ゆのきまご文 早川司寿乃 絵  
理論社 2006年3月発行  
請求記号 TE171

【一般書】桜が創った「日本」ーソメイヨシノ起源への旅ー  
佐藤俊樹 著  
岩波書店 2009年2月発行  
請求記号 S479.9

【児童書】春の主役 桜  
ゆのきまご文 早川司寿乃 絵  
理論社 2006年3月発行  
請求記号 TE171

**図書館の本棚より「お花見の本」別置紹介中**

**健康スポーツライフ**

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。  
問い合わせ スポーツ振興課(総合体育館内) ☎258-0311

3月に入りました。今まで「冬に備える3つの心得」に順を追って説明していましたが、皆さん、「3つの心得」しっかりと守れたでしょうか？今回は総まとめなので、これから何をすれば良いのかをご紹介します。皆さんの体質、運動歴によって運動を変えていく必要もありますが、暑い時期・寒い時期など季節が変化するのに伴い、変えることはとても大切なことです。これから温かくなるにつれて、外での有酸素運動を増やすと良いでしょう。

特にランニングをお勧めします。走る動作は簡単ですが、実はとても複雑な動作の為、全身満遍なく使うので脂肪燃焼にとても効果的です。効率良く走る為のポイントを3つ紹介します。

- ①踵からしっかりと着くように。(写真①)
- ②おなかを少し凹ましながら。(写真②)
- ③腕振りには肘から振りましょう。(写真③)

いかがでしょうか。始めは歩きからでも結構です。20分から始めてみて、慣れたら40、50分と伸ばしてみてください。



**初回講習会のご案内**



フィットネスルームをご利用になるには、初回講習会(予約制)を受講していただきます。毎日3回行っていますので予約をしてご参加ください。講習時間は

約1時間です。予約・詳細はスポーツ振興課までお願いします。  
**【時間】** 午前10時～、午後3時～、午後7時30分～  
**【受講料】** 300円(65歳以上200円)  
**【受付】** ☎258-0311  
**※注意事項** ①各講習時間の開始30分前より、2階フィットネスルームで受付を行います。開始時間を過ぎますと講習は受けられませんのでご注意ください。  
 ②当日は、運動しやすい服装で内履き専用のシューズ、手続きの際に必要な免許証又は健康保険証をご持参ください。  
**●休館日** 毎週月曜日(祝日にあたる時は翌日)

**教育トピックス**

町にある大崎電気工業株式会社のハンドボール部は、日本でも屈指の強豪チームです。その優れた技能を教育の場に活かそうと、今年度より交流事業がスタートし、2つの小学校と1つの中学校が、4回の交流事業を実施しました。その1つ、藤久保中学校での交流の様子を紹介します。

2年生の体育です。運動場に、ひときり大きな人影が見えます。大崎電気ハンドボール部の選手です。生徒はまず、その鍛えあげられた肉体に驚きます。そして、その大きな体が、誰よりも高く跳び、速く走り、スピードボールを運ぶのが、目を見張ります。

その選手が、ハンドボールの動き一つ一つに、「なぜ、この動きなのか」とわかりやすい解説を加え指導してくれるので、納めし練習に取り組みます。生徒の動きも活き活きとしています。交流の成果です。

練習の初めに、「積極的に声を出して、返事を生んで友達を励ましたりすること」を生徒と約束し、選手自らが、ハイタッチや拍手などで生徒の良い動きを称賛します。生徒からも「ナイスマン」「いいよ!」「ドンマイ!」「がんばろう!」と声が出はじり、互いの成長を喜び合う一体感あふれる活動



となりました。生徒の笑顔が、流れる汗とともに輝いていました。

また、3年生への講話でも、選手自身の体験をもとに、挫折を経験しても、そのこととらわれ立ち止まるのではなく、「一心不乱に一つのことに取り組みこ」でその挫折に負けず前進しようとする力を得ることができると話してくれました。生徒の目は真剣です。大きくうなずきながら聞いていた生徒もいます。これから高校進学や実社会と、未知の世界に飛び立ちようとしている生徒の期待と不安に対して、このうえないエールとになりました。

トップアスリートとの交流は、単に技術・技能の向上というだけではなく、豊富な経験から発せられる言葉、態度すべてから学ぶことができ、教育の目標である人格の形成にも大きな成果が期待できます。

町立小中学校の教育活動は、地域の教育力を活かすことでますます充実したもものになっていきます。

トップアスリートの垣かに感動!  
大崎電気ハンドボール部との交流事業

**三芳の文化財**

三芳生誕二〇〇年  
三芳村から三芳町へ

平成三年は、三芳町誕生四〇年の節目の年に当たる。昭和四五(一九七〇)年十一月三日に町制が施行された。三芳村誕生から八一年を経過し、合併するところなく、旧村であった吉富、北水井、藤久保、竹間沢の四つの大字のまま、町制を迎えた。

人口は、町制施行に先立つ一カ月前の昭和四五(一九七〇)年十月一日の国勢調査で、二四〇八四人(世帯数四、二二戸)と確定。町制施行の人口要件が整い、町へと踏み切った。

町制施行の十年前、すなわち昭和三五(一九六〇)年十一月一日の国勢調査で人口は、四三三六二人(世帯数七、一七戸)、三芳村誕生の明治二〇年代に比べ人口は倍増しているものの、七、三年間の自然増の範疇として理解できる。人口は町制施行を行った昭和四五年の数年前から急増する。昭和三九年四月人口四、九五五人に過ぎないが、この頃から人口増の兆しが窺える。昭和三年「東京オリンピック」が開催された。日本の戦後復興、経済発展の証として世界を驚かせた。一方、東京という都市を膨張させ、首都圏三〇〇キロの三芳へも人口の流入を促していった。東京オリンピックから二年後

昭和四一年六月に人口六、五八八人、その一年後昭和四二年四月に八、〇九二人、昭和四三年四月に九、一八二人、昭和四三年十一月には一〇、〇九四人と、ついに人口一万人を超えた。「東京オリンピック」から四年で人口は倍増。「人口急増率日本一」の村「三芳」とマスコミで報道されたのはちょうどこの頃のことである。

人口の増加は、さまざまなインフラの整備を余儀なくさせた。この頃の「広報みよし」を見ると当時の大わらわの様子がかかる。昭和四〇年中中央公民館建設、昭和四三年三芳小学校校舎増設、水道事業の開始、竹間沢第一工業団地整備、町制施行の年には、藤久保小学校の建設、役場新庁舎の開庁(現いるま野農協三芳支店)など、さまざまな分野で町制に向けた動きが急ピッチで行われていった。

一方、広報にはしばしば「違法建築」「不法投棄」といった都市化による弊害も目立ち始めたことも窺える。新興住宅地では二〇棟以上を全壊する大火災も発生したこともあった。町制施行前後の三芳村は、さまざまな分野で基盤整備が急ピッチで行われ、課題も発生したが、大忙しの日々であったことが広報から垣間見られる。

町制施行から四〇年、発展を続ける町の基礎が町制施行前後にあったことが窺える。町制四〇年の節目の年、先人に感謝し、わが町三芳の益々の発展を願いたい。